

年 間 授 業 計 画

科 目 名	エッセイライティング I		単位数	3 単位	学年・学科	3 学年 全学科			必修	選択
教科書名					副 教 材 名	2026年受験用大学入学テスト過去問題集				
科 目 の 目 標		英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。								
学習内容と進め方		A L Tおよび日本人教師 2 名とのティームティーチングで授業を進める。ワークブックやハンドアウトを利用し、A L T との実践的なやり取りを通して、科目の目標にある領域を総合的に伸ばすよう、様々な学習活動を行う。								
学 習 の 留 意 点		日常的な話題や対話の展開などにおいて、一定の支援をすれば、情報や気持ちなどを読みとることが出来る力を身につけさせる。また、自分の意見や考えなどをより高度な英語表現を用いて書く力を身につけさせる。各個人が必要とする英語力を身につけ、希望する進路へ進められるよう支援する。								
月	単 元	予定時数	具体的な学習内容		評価の観点			備考（評価項目）		
					1	2	3			
4	R第 1 問A メール・広告	1 1	大学入試共通テスト問題に挑戦					・ 前期中間考査 ・ パフォーマンステスト ・ エッセイ		
5	L第 1 問A 単文	1 2	様々な分野の英文を読む ・ 問題提起 ・ 現状の調査 ・ 意見をまとめる		○	○	○			
	R第 1 問B 告知・案内				○	○	○			
6	L第 1 問B 単文・イラスト				○	○	○			
	R第 2 問AB 記事	1 4	様々な形式の音声聞く							
	L第 2 問 短会話・イラスト									
7	R第 3 問記事・物語	7								
	L第 3 問 短会話		実用検定 2 級を目指す							
8	R第 4 問複数の記事と図表	6			・ 語彙文法	○	○		○	
									・ 前期期末考査	
9		1 0		・ Rapid Reading	○	○	○			
							・ パフォーマンステスト			
1 0	L第 4 問モノローグ・イラスト・図表条件に基づく選択	1 2	パフォーマンステスト (年4回考査前)	・ Writing	○	○	○			
							・ エッセイ			
1 1	R第 5 問記事・説明文	1 1	・ 英語による意見交換 ・ Speaking 2 次面接対策	・ Listening						
							・ 後期中間考査			
1 2	L第 5 問 ワークシート・内容把握	1 2	・ ディベート ・ プレゼンテーション	・ 意見文を書く	○	○	○			
							・ パフォーマンステスト			
	R大 6 問 記事・説明文									
1	L第 6 問 対話文・会話文	1 0								
							・ 後期期末考査			
2	家庭学習				○	○	○			
							・ パフォーマンステスト			
評価方法		(1) 評価の観点は下記の票の通りとする。 (2) 具体的には定期考査、パフォーマンステスト、小テスト、提出物、授業への参加態度等を総合して判断する。								
評価の観点	観点	趣旨								
	1. 知識・技能	様々な分野の英文や表現において、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどが理解できている。また、これらの知識を、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。								
	2. 思考・判断・表現	様々な分野の英文や表現において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身につけている。								
	3. 主体的に学習に取り組む態度	様々な分野の英文や表現において、背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。								
評価基準	1. 知識・技能	A 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 B 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を概ね身に付けている。 C 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能の習得が不十分である。								
	2. 思考・判断・表現	A 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりすることができる。 B 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりすることが概ねできる。 C 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりする力が不十分である。								
	3. 主体的に学習に取り組む態度	A 主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図っている。 B 主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 C 主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする意欲が不十分である。								